

地 区 名	高山
都 道 府 県 名	岐阜県
市 町 村 名	高山市
過 疎 地 域 指 定 年 月	—
振 興 山 村 指 定 年 月	高山市(旧宮村) 昭和43年12月
関 係 す る 旧 緑 資 源 幹 線 林 道 の 路 線 ・ 区 間 名	八幡・高山線 宮・高山区間
作 成 年 度	令和2年度
事 業 期 間	令和3年度～令和7年度

山のみち地域づくり計画書

(高 山 地 区)

岐 阜 県

目 次

第1章	地区の概要
第2章	山のみち地域づくりの目標・指標と設定の考え方
第3章	事業計画
第1節	目標・指標と整備内容と整合性
第2節	事業計画概要
第3節	予定事業実施主体及び施設の予定管理者
第4節	事業内容及び事業費
第4章	その他事業の実施に関し必要な事項
第5章	計画概要図

第1章 地区の概要

1 地区の概要

本地区は、岐阜県の北部に位置する高山市1市で構成され、人口92,747人、総面積217,767haで、県土の約21%を占め、日本で最も広い面積を有する市町村である。本地区の東部には、槍ヶ岳(3,180m)、乗鞍岳(3,026m)、御嶽山(3,067m)などが連なる飛騨山脈により長野県と接しており、北西部の白山山系の銚子ヶ岳(1,810m)、大日ヶ岳(1,709m)により福井県、岐阜県郡上市と接している。

水系は、高山市のほぼ中央に位置する高山市一之宮町内にある位山山脈により中部日本の分水嶺を成しており、一方は宮川・神通川を経て日本海へ、もう一方は飛騨川・木曾川を経て太平洋へ注いでいる。

地質は、計画区の南部の山岳地帯から宮川左岸の広い範囲で濃飛流紋岩類が見られ、北部には砂岩、チャート等の美濃帯中・古生層が広く分布しており、北部から東部の山岳部には、飛騨変成岩類、船津、白川花崗岩類、笠ヶ岳流紋岩、大雨見山層群が塊状に分布している。また、乗鞍岳、白山、焼岳の山麓一帯には、安山岩地帯が広く分布している。

気候は、日本海側気候・内陸性気候を併せ持ち、昼夜・夏冬の気候温度差が大きく、冬は氷点下15度近くまで下がることもある。年間平均気温は11.0℃前後で、雨量は年間平均1,700mm程度である。

2 森林資源の概要

本地区の総面積は、217,767haで、うち森林面積は200,606ha、林野率は92%である。民有林の森林資源の現況は、119,757ha、蓄積23,544千m³で人工林率37.8%となっている。民有林の人工林面積のうち7齢級以下の保育を必要とする林分は12.5%を占め、特に間伐対象林分である3～10齢級の割合は48.8%と間伐等の手入れが必要な森林が大きな割合を占めており、今後も森林の適切な管理を行っていく必要がある。

3 集落及び生活環境の状況

本地区は、江戸時代以来の城下町・商家町の姿が保全され、その景観から「飛騨の小京都」と呼ばれている飛騨高山市街など、観光資源に恵まれている。周辺道路の状況は、木曾川水系の飛騨川、神通川水系の宮川に沿って縦断する国道41号やJR高山本線が通り、東海北陸自動車道が整備され、横断する形で中部縦貫自動車道が整備・計画されており、国道256号、国道257号、国道158号を幹線として、それぞれに接続する県道及び市道により形成されている。

しかし、当地域は山林が92%あまりを占め、河川に沿って点在する山間部の集落は、渓谷型で起伏の激しい地形の合間にあり、交通手段は自らの自家用車に頼らなければならない状況である。

このため、これら地域においては、高齢者が安心して生活できる地域づくりと、雇用機会の増大に繋がる交流産業の振興を推進していくことが重要であり、道路網の整備に対する期待は大きい。

4 林道の整備状況

本地区における林内道路密度は14.3m/haであり、県平均14.5m/haとほぼ同じである。

しかし、県目標の林内密度19.0m/haを大きく下回っている。

林道については、平成30年度末現在で約598kmが整備されているが、民有林林道密度は5.0m/haとなっており、県平均の6.6m/haを下回っている。

このため、林道の整備が急務となっている。

5 林業・林産業の概要

本地区において、高山市周辺の原木は、主に高山木の里団地に集荷されており、飛騨地域の木材加工業者に販売されている。高山木の里団地には、製材工場やプレカット工場があり、製材から住宅部材加工まで行い、地域材の付加価値を高めており、地元材を使用した木材の生産・流通・加工システムの確立に努めている。

また、岐阜県においては、産直住宅の建設促進、公共施設等の木造化・木質化の推進、公共事業への木製品の導入などにより、県産材の利用を進めるとともに、林建協働による作業道整備や間伐材等の曲がり材、短尺材を大量に利用する合板工場等への支援などに取り組みしており、間伐材等の積極的な利用に努めているところである。

山のみち整備に伴う間伐材等の搬出・利用の促進が期待できる。

第2章 山のみち地域づくりの目標・指標と設定の考え方

本地区は、中部圏域の重要な水源地となっていることから、適切な森林整備が不可欠となっている。しかし、高齢化が進むほか、財産としての魅力の低下、林業の担い手の減少、これらに伴い森林の手入れ不足が顕著となっている。

このため、本路線の整備による森林整備を通じた多面的機能の高度発揮、林業生産活動の合理化、機械化による林産物の有効利用、高付加価値化、林業就業環境の改善など効率的、効果的な森林整備の促進を図るとともに、地域交通網の整備による山村生活環境の改善を推進する。

第3章 事業計画

第1節 目標・指標と整備内容の整合性

1 目標

本地域が抱える課題等に対して、以下について目標を設定する。

- (1) 森林の持つ多面的機能の維持・増進
- (2) 森林資源の循環利用を通じた、活力ある林業及び木材産業の振興
- (3) 効率的な森林施業の推進

2 指標

(1) 森林の持つ多面的機能の維持・増進

当該地域の森林は、重要な水源地域となっていることから、地域の森林が有する多面的機能の維持・増進を図って行く必要があり、このためには、計画的・継続的な森林の整備が重要である。

そこで、本計画においては、森林資源構成を勘案しつつ、適切な森林施業を計画的に実施することとし、過去5ヵ年間（平成27年度～令和元年度）で実施した面積以上の森林整備（間伐）の実施を推進することを指標とする。

【指標】

路線名	利用区域	指標	事業による効果		備考
			過去5ヵ年 の実績	今後5ヵ年 の計画	
宮・高山	829ha	森林整備（間伐）面積 の2%以上の増加	44.9ha	45.8 ha	

(2) 森林資源の循環利用を通じた、活力ある林業及び木材産業の振興

当地域の基幹的な林道となる山のみちの整備により、森林施業の集約化や林業の機械化の推進が期待される。当地域の森林から生み出される木材を効率的に生産し無駄なく有効利用することによって、地域社会の活性化につながるよう、林業及び木材生産の振興を図ることが重要である。

そこで、本計画においては、森林資源構成を勘案しつつ、適切な間伐施業を計画的に実施することとし、生産される木材の有効利用を推進することを指標とする。

【指標】

路線名	利用区域内 利用間伐 対象面積	指標	事業による効果		備考
			過去5ヵ年 の実績	今後5ヵ年 の計画	
宮・高山	239.6 ha	木材生産量の増加 (利用間伐面積の増加)	30.1 ha	30.7 ha	

(3) 効率的な森林施業の推進

当地域の林業は、森林所有者の経営意欲の減退、林業担い手の減少・高齢化が依然として続いている状況であり、適正な森林整備・保全や効率的な森林施業の推進を行うため、林業従事者の就業環境の改善を図ることが重要である。

そこで、本計画においては、路網の骨格となる山のみち整備により、集落間のアクセス道及び林業従事者の歩行時間、資材運搬等の基礎的なアクセス時間を短縮することを指標とする。

【指標】

路線名	指標	事業による効果		備考
		現状	目標	
宮・高山	車両及び歩行時間短縮 (片道)	27分	19分	

第2節 事業計画概要

1 山のみちの整備

(1) 林道整備

区分	番号	路線名	幅員	延長	利用区域 森林面積	主要 構造物	関連する 旧緑資源 幹線林道	基幹道 指定	実施 年度	備考
新設	①	宮・高山	m 7.0	m 100	ha 829	—	宮・高山	無	R3 ～ R7	
	計			100	829					

(2) 作業道等整備

該当無し

2 地域創造型整備の目的及び内容

該当無し

3 事業見直し調査の目的及び内容

該当無し

第3節 予定事業実施主体及び施設の予定管理者

事業 種目	番号	路線名 ・ 施設名	予定事業主体	予定管理者	予 定 管理方法	備 考
林道 整備	①	宮・高山	岐 阜 県	高 山 市	直 営	

第4節 事業内容及び事業費

事 業 種 目	路 線 名 ・ 施 設 名	事 業 量 (m)	単 価 (円)	事 業 費 (千円)	備 考
林道整備	宮・高山	100	4,000,000	400,000	
計		100	4,000,000	400,000	

第4章 その他事業の実施に関し必要な事項

計画路線付近においてクマタカの生息が確認されていることから、適期のモニタリング調査実施で施工時期の調整を行い、希少猛禽類の生息環境保持に配慮した工事に努める。

第5章 計画概要図

別添、事業計画図のとおり

山のみち地域づくり交付金事業計画図 【高山地区 宮・高山線】

S=1/25,000

N

国道41号線

市道越後西一色2号線

高山市 5.8km

EP
L=830m

越後町

宮・高山

L=5,040m

R3年度
W=5.5(7.0)m L=100m

全体計画 W=7.0m
山のみち地域づくり交付金
全体計画区間 (H22~R11)
W=7.0m L=1,990m
事業費2,100百万円

山のみち地域づくり交付金
5ヵ年計画区間 (R3~R7)
W=7.0m L=100(376)m
事業費400,000千円

W=7.0m L=(376)m

計画区間 W=7.0m L=90m

国道41号線

L=1,900m

L=160m

県道宮・萩原線

県道宮・清見線

県道宮・萩原線

L=1,680m

L=90m

L=1,450m

完成区間 W=7.0m

高山市 15.5km

1:25,000

利用区域面積 823.1ha

凡例

利用区域	
民有林	
国有林	
保安林	
公道	
既設	
事業計画	
残計画(県)	

BP